

NEC

Express5800/100 シリーズ

ESMPRO[®]/AC Enterprise

マルチサーバオプション

Ver3.0 (Linux 版)

1 ライセンス

UL4008-001

セットアップカード

ごあいさつ

このたびは ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.0 1ライセンスをお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。

本書は、お買い上げ頂きましたセットの内容確認、セットアップの内容、注意事項を中心に構成されています。ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.0 1ライセンスをお使いになる前に、必ずお読みください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標または商標です。

Citrix XenServer は Citrix Systems, Inc. の米国およびその他の国における登録商標です。

VMware、VMware vSphere および VMware ロゴは、米国およびその他の地域における VMware, Inc. の登録商標または商標です。

Windows® は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

ESMPRO® は日本電気株式会社の登録商標です。

その他記載された会社名およびロゴ、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

目次

第1章 パッケージの中身を確認してください.....	4
第2章 セットアップの準備.....	5
2. 1 ESMPRO/ACEnterprise マルチサーバオプションのセットアップ環境.....	5
第3章 セットアップ手順.....	6
3. 1 ESMPRO/ACEnterprise マルチサーバオプションのインストール.....	7
3. 1. 1 Management Consoleを使用する場合のインストール方法.....	7
3. 1. 2 Management Consoleが使用不可の場合のインストール方法.....	14
3. 2 ESMPRO/ACEnterprise マルチサーバオプションの環境設定.....	16
3. 2. 1 Management Consoleでの設定.....	16
3. 2. 2 Apacheがインストールされている環境の場合.....	23
3. 2. 3 設定ファイルでの設定変更.....	24
3. 3 手動操作によるLinuxサーバのシャットダウン.....	30
3. 4 ESMPRO/ACEnterprise マルチサーバオプションのアンインストール.....	32
3. 4. 1 Management Consoleを使用する場合のアンインストール方法.....	32
3. 4. 2 Management Consoleが使用不可の場合のアンインストール方法.....	35
第4章 注意事項.....	36
4. 1 セットアップ/アンインストール関連.....	36
4. 2 スケジュール運転での運用.....	38
4. 3 FirewallServerでの運用.....	39
4. 4 システムログの文字コードについて.....	40
4. 5 仮想化環境について.....	42
4. 5. 1 VMware ESX 4 環境について.....	42
4. 5. 2 XenServer Enterprise環境.....	42
4. 5. 3 KVM (Kernel-based Virtual Machine)環境.....	42
第5章 障害発生時とは.....	43
5. 1 Web機能を利用する場合.....	43
5. 2 Web機能を利用しない場合.....	47

第1章 パッケージの中身を確認してください

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.0 (Linux版) 1ライセンスのパッケージの内容は、次のとおりです。(以降『ESMPRO/ACEM』または、『マルチサーバオプション』と称します) まず、添付品が全部そろっているかどうか、確認してください。

- CD-ROM 1枚
『NEC Express5800 シリーズ ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.0 1ライセンス』
- ソフトウェアのご使用条件
- セットアップカード

第2章 セットアップの準備

セットアップとは、『NEC Express5800 シリーズ ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.0 (Linux 版 1ライセンス』CD-ROM 媒体にあるマルチサーバオプションのプログラムを、実行できる形式にして固定ディスクにコピーすることです。セットアップの方法は、第3章で詳しく説明しています。

なお、マルチサーバオプションをご使用になるためには、移動させるサーバとは別に ESMPRO/AC Enterprise Ver3.0/3.1または、ESMPRO/AutomaticRunningController for Linux Ver3.1がセットアップされている管理サーバ (制御端末) が、同一LAN上で移動している必要があります。

2. 1 ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのセットアップ環境

マルチサーバオプションをセットアップするためには、次の環境が必要です。

① ハードウェア

<サーバ>

- ・対象機種 : Express5800 シリーズ
- ・メモリ : 12.0MB以上
- ・固定ディスクの空き容量 : 5.0MB以上

② ソフトウェア

<サーバ>

- ・ TurboLinux Server 6.1 / 6.5 / 7
- ・ Red Hat Linux 6.1 / 6.2J / 7.1 / 7.2 / 7.3
- ・ Red Hat Linux Advanced Server 2.1 powered by MIRACLE
- ・ Red Hat Enterprise Linux ES/AS 2.1/3/4
- ・ Red Hat Enterprise Linux 5/5AP / 6.1/6.2
- ・ Miracle Linux Standard Edition Version1.0 / 1.1 / 2.0 / 2.1 / 3.0 /4.0/ AS
- ・ Asianux Server 3
- ・ SUSE Linux Enterprise Server 10/11
- ・ Citrix XenServer Enterprise Edition 4.0/4.1/5.0/5.5
- ・ VMware ESX 4.0/4.1

* NEC Express サーバのサポートしたLinuxである必要があります。

※ここに記載済みのLinux OSについては、Update適用が必要なOSについても記載しています。Update適用の必要有無の情報、および、最新のLinux OSへの対応状況につきましては、以下のページで情報を公開しておりますので、ご確認くださいませようお願いします。Update適用により対応となっているOSの場合は、必ず、Updateを適用してください。

電源管理・自動運転 ESMPRO/AutomaticRunningController

http://www.nec.co.jp/esmpro_ac/

→ 動作環境

→ 対応 OS 一覧

第3章 セットアップ手順

LinuxサーバへのESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのインストール方法は、Expressサーバの機種によって大きく分けて2つの方法がありますので、どちらかの方法でインストールしてください。

なお、セットアップに関しては製品CDに同梱のドキュメント「Q&A」もあわせてご確認ください。（ドキュメントはCD-ROMドライブ:¥ esmacent.htmlより参照可能です。）

1. ブラウザを使用してセットアップ

Expressサーバのうち、インターネットアプライアンスサーバのような『Management Console』の機能をサポートしているサーバの場合には、『Management Console』の機能を利用してESMPRO/ACEMのインストールが可能です。

詳しい手順は、『3. 1. 1』の『Management Consoleを使用する場合のインストール方法』を参照してください。

なお、『Management Console』の利用方法については、各インターネットアプライアンスサーバのユーザーズガイドも併せて参照してください。

2. コマンドプロンプトからセットアップ

上記Expressサーバ以外のLinuxサーバに、ESMPRO/ACEMを導入する場合には、コマンドプロンプトからrpmコマンドを使用してインストールする必要があります。

詳しい手順は、『3. 1. 2』の『Management Consoleが使用不可の場合のインストール方法』を参照してください。

3. 1 ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのインストール

以前のバージョンのESMPRO/ACEMがインストールされている場合には、以下の手順でインストールされているESMPRO/ACEMをアンインストール後、本製品のインストールを行います。

3. 1. 1 Management Console を使用する場合のインストール方法

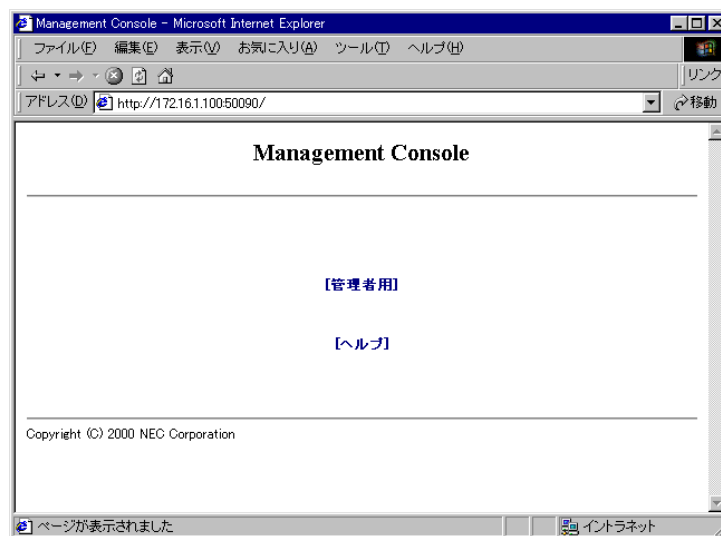
- (1) ラベルに『NEC Express5800 シリーズ ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.0 1ライセンス』と書かれてあるCD-ROM媒体をインストールするコンピュータのCD-ROMドライブに挿入します。
- (2) Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。
アドレスを以下のように指定し、下記の画面を表示します。（インストールするサーバのIPアドレスが172.16.1.100の場合）

<http://172.16.1.100:50090/>

※機種によって、Management Consoleにインストール機能がない場合があります。その場合にはManagement Consoleを利用しない手順を参照してインストールしてください。

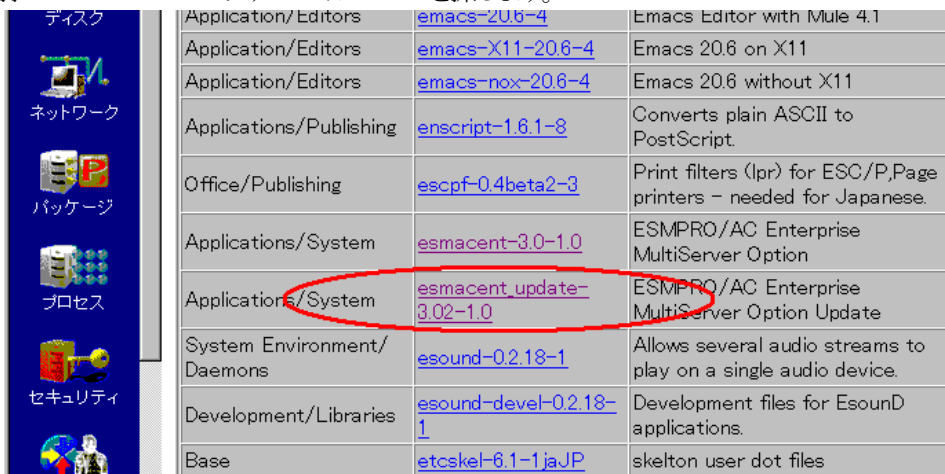
※本文中に記述したManagement Consoleでの各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

※このアドレスで指定する「50090」は「Management Console」のポート番号の設定値です。このポート番号は設定変更されている場合がありますので、上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照してください。



- (3) [管理者用]を選択し、ユーザ名とパスワードを入力してください。

- (4) 以下の手順でマルチサーバオプションのインストール状況を確認します。
- ① 左側のフレームの「パッケージ」を選択します。
 - ② 「パッケージの一覧」を選択します。
 - ③ 以前のバージョンのマルチサーバオプションを探します。



Application/Editors	emacs-20.6-4	Emacs Editor with Mule 4.1
Application/Editors	emacs-X11-20.6-4	Emacs 20.6 on X11
Application/Editors	emacs-nox-20.6-4	Emacs 20.6 without X11
Applications/Publishing	enscript-1.6.1-8	Converts plain ASCII to PostScript.
Office/Publishing	escpf-0.4beta2-3	Print filters (lpr) for ESC/P, Page printers - needed for Japanese.
Applications/System	esmacent-3.0-1.0	ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option
Applications/System	esmacent_update-3.02-1.0	ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option Update
System Environment/Daemons	esound-0.2.18-1	Allows several audio streams to play on a single audio device.
Development/Libraries	esound-devel-0.2.18-1	Development files for Esound applications.
Base	etcskel-6.1-1.jaJP	skelton user dot files

※以前のバージョンのマルチサーバオプションがインストールされていない場合は、パッケージ一覧中に表示されません。この場合には (7) へ進んでください。

- (5) 以前のバージョンがすでにインストール済みの場合、以下の手順で設定ファイルのバックアップを行ってください。

※本操作は Management Console を使用して行うことができません。 telnet が使用できる場合は telnet でログインして作業を行ってください (ログイン後は su コマンドにて root 権限を取得してください)。
telnet が使用できない場合には、直接サーバに root でログインして作業を行ってください。

- ① 以下のコマンドを実行します。


```
# mkdir -p /usr/local/AUTORC_Data/data
# chmod 755 /usr/local/AUTORC_Data
# chmod 755 /usr/local/AUTORC_Data/data
```
- ② [/usr/local/AUTORC/data/config.apc]が存在する場合には以下のコマンドを実行します。


```
# cp -rf /usr/local/AUTORC/data/* /usr/local/AUTORC_Data/data
```
- ③ [/usr/local/AUTORC/data/config.apc]が存在しない場合には以下のコマンドを実行します。


```
# cp -rf /usr/local/AUTORC/*.ini /usr/local/AUTORC_Data/
# cp -rf /usr/local/AUTORC/*.apc /usr/local/AUTORC_Data/
```


- (6) 以前のバージョンがすでにインストール済みの場合、以下の手順で以前のバージョンをアンインストールしてください。
- ① 上記の「パッケージの一覧」で、「esmacent_update-3.0x-1.0」を選択します。
 - ② 表示中の「アンインストール」を選択します。(esmacent_update-3.0x-1.0が削除されます)
 - ③ 「パッケージの一覧」で、「esmacent_update-3.0x-1.0」を探し、アンインストールされていることを確認してください。
 - ④ 上記の「パッケージの一覧」で、「esmacent-3.0x-1.0」を選択します。
 - ⑤ 表示中の「アンインストール」を選択します。(esmacent-3.0x-1.0が削除されます)
 - ⑥ 「パッケージの一覧」で、「esmacent-3.0x-1.0」を探し、アンインストールされていることを確認してください。

(注意)

Update モジュールの削除後にマルチサーバオプションのアンインストールを行うと以下のようなエラーメッセージが表示されますが、アンインストールは正常に完了しています。

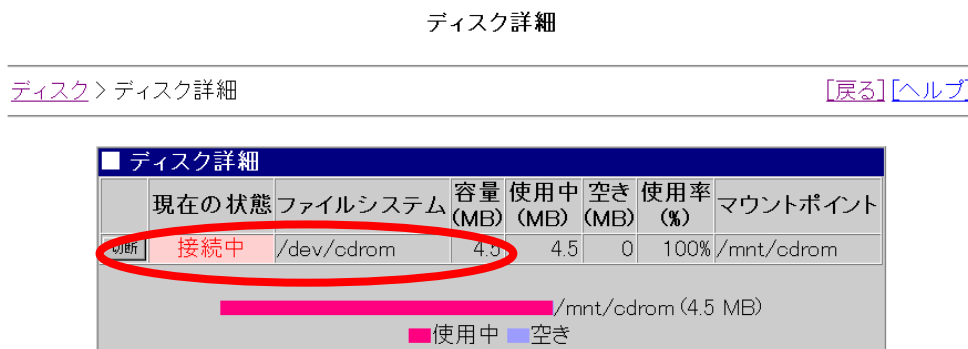
rm: /usr/local/AUTORC/data: is a directory

rm: /usr/local/AUTORC/update: is a directory

- (7) 以下の手順でCD-ROMをファイルシステムにマウントしてください。
- ① 左側のフレームの「ディスク」を選択します。
 - ② 「/dev/cdrom」の「詳細」を選択します。



- ③ 「接続」を選択します。現在の状態が「接続中」になったことを確認します。



Copyright (C) 2000 NEC Corporation

(8) 以下の手順でマルチサーバオプションのインストールを行います。

- ① 左側のフレームの「パッケージ」を選択します。
- ② 「インストール」の「ディレクトリ」に「/mnt/cdrom」と入力して「参照」ボタンを選択します。
- ③ 以下のように表示されますので、「esmacent-3.08-1.0.i386.rpm」の「追加」ボタンを選択します。



- ④ 「インストールしてもよろしいですか?」と表示されますので、「OK」を選択してください。インストールが正常に終了すると以下のメッセージが表示されます。



(9) マルチサーバオプションが、インストールされたことを確認します。

a) パッケージの一覧で確認

- ① 左側のフレームの「パッケージ」を選択します。
- ② 「インストールされているパッケージの一覧」を選択します。
- ③ 「ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option」があることを確認します。

Applications/File	perl-File-MMagic-1.13-2	guess file type from contents
System Environment/Daemons	ucd-snmp-4.2.3-1.7.1.3	A collection of SNMP protocol tools from UC-Davis.
System Environment/Daemons	nfs-utils-0.31-5	NFS utilities and supporting daemons for the kernel NFS server.
Applications/system	esmacent-3.06-1.0	ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option
User Interface/X	jisxprt0-1988-01-6	16-dot-jis auxiliary kanji font
User Interface/X	knm-new-1.1-4	Kaname-cho font, revised version
Applications/Internet	netscape-	The Netscape Communicator

b) マルチサーバオプションのサービスを確認

- ① 左側のフレームの「サービス」を選択します。
- ② 「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.08」があることを確認します。

サービス

サービス [ヘルプ](#)

■ サービス				
OS 起動時の状態	現在の状態	(再)起動	停止	サービス
起動 ▾	停止中	起動	停止	ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.06
停止 ▾	停止中			ESMPRO
停止 ▾	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動 ▾	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(SNMP)
起動	起動中	再起動	停止	リモートログイン(TELNET)
停止 ▾	停止中	起動	停止	WPADサーバ(wpad-httpd)

設定

* 図はVer. 3.06 のものです

- (10) (5) で設定ファイルのバックアップを行った場合は、以下の手順にてバックアップファイルの復元を行います。

※本操作は**Management Console**を使用して行うことができません。telnet が使用できる場合はtelnet にてログインして作業を行ってください（ログイン後は su コマンドにて root 権限を取得しておいてください）。telnet が使用できない場合には、直接サーバにroot でログインして作業を行ってください。

- ① [/usr/local/AUTORC_Data/data/config.apc]が存在する場合には以下のコマンドを実行します。
cp -rf /usr/local/AUTORC_Data/data/* /usr/local/AUTORC/data/
- ② [/usr/local/AUTORC_Data/data/config.apc]が存在しない場合には以下のコマンドを実行します。
cp -rf /usr/local/AUTORC_Data/*.apc /usr/local/AUTORC/
cp -rf /usr/local/AUTORC_Data/*.ini /usr/local/AUTORC/
- ③ 以下のコマンドを実行します。
rm -rf /usr/local/AUTORC_Data/

- (11) 以下の手順でCD-ROMをファイルシステムからアンマウントしてください。

- ① 左側のフレームの「ディスク」を選択します。
- ② 「dev/cdrom」の「切断」を選択します。

3. 1. 2 Management Console が使用不可の場合のインストール方法

- (1) rootでログインする。
- (2) rpmコマンドを実行してインストール状況を確認します。

```
# rpm -q esmacent_update
```

```
# rpm -q esmacent
```

rpm の実行結果が表示されます。

(rpm コマンドの実行結果の例1)

```
package esmacent_update is not installed
package esmacent is not installed
```

※上記結果が出力された場合にはrpmコマンドで指定したパッケージはインストールされていません。この場合には (5) に進みます。

(rpm コマンドの実行結果の例2)

```
esmacent_update-3.02-1.0
esmacent-3.0-1.0
```

※上記のような結果が出力された場合にはrpm コマンドで指定したパッケージがインストールされています。

- (3) 以前のバージョンがすでにインストール済みの場合、以下の手順で設定ファイルのバックアップを行ってください。

- ① 以下のコマンドを実行します。

```
# mkdir -p /usr/local/AUTORC_Data/data
```

```
# chmod 755 /usr/local/AUTORC_Data
```

```
# chmod 755 /usr/local/AUTORC_Data/data
```

- ② [/usr/local/AUTORC/data/config.apc]が存在する場合には以下のコマンドを実行します。

```
# cp -rf /usr/local/AUTORC/data/* /usr/local/AUTORC_Data/data
```

- ③ [/usr/local/AUTORC/data/config.apc]が存在しない場合には以下のコマンドを実行します。

```
# cp -rf /usr/local/AUTORC/*.ini /usr/local/AUTORC_Data/
```

```
# cp -rf /usr/local/AUTORC/*.apc /usr/local/AUTORC_Data/
```

- (4) 以前のバージョンがすでにインストール済みの場合、rpmコマンドを使用してアンインストールします。
- ① アップデートモジュールをアンインストールします。
rpm -e esmacent_update
 - ② マルチサーバオプションをアンインストールします。
rpm -e esmacent
- (5) ラベルに『NEC Express5800 シリーズ ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.0 1 ライセンス』と書かれてあるCD-ROM媒体をインストールするLinuxサーバのCD-ROMドライブに挿入し、以下のコマンドでCD-ROMをファイルシステムにマウントしてください。
mount /dev/cdrom /mnt/cdrom
- (6) CD-ROMディレクトリに移動します。
cd /mnt/cdrom
- (7) rpmコマンドを使用してマルチサーバオプションのインストールを行います。
rpm -ihv esmacent-3.08-1.0.i386.rpm
- (8) (3) で設定ファイルのバックアップを行った場合は、以下の手順にてバックアップファイルの復元を行います。
- ① [/usr/local/AUTORC_Data/data/config.apc]が存在する場合には以下のコマンドを実行します。
cp -rf /usr/local/AUTORC_Data/data/* /usr/local/AUTORC/data/
 - ② [/usr/local/AUTORC_Data/data/config.apc]が存在しない場合には以下のコマンドを実行します。
cp -rf /usr/local/AUTORC_Data/*.apc /usr/local/AUTORC/
cp -rf /usr/local/AUTORC_Data/*.ini /usr/local/AUTORC/
 - ③ 以下のコマンドを実行します。
rm -rf /usr/local/AUTORC_Data/
- (9) CD-ROMをアンマウントします。
cd /

umount /dev/cdrom
- (10) システムの再起動あるいはACサービスの再起動を行ってください。

3. 2 ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションの環境設定

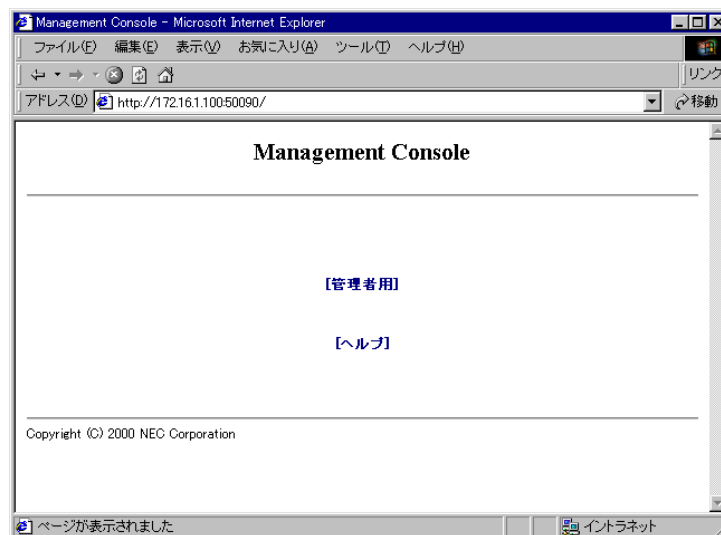
3. 2. 1 Management Console での設定

- (1) ブラウザを起動し、Webベースの管理ツール「Management Console」に接続します。
アドレスを以下のように指定し、下記の画面を表示します。（インストールするサーバのIPアドレスが172.16.1.100の場合）

<http://172.16.1.100:50090/>

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。
その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

※このアドレスで指定する「50090」は「Management Console」のポート番号の設定値です。このポート番号は設定変更されている場合がありますので、上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照してください。



- (2) [管理者用]を選択し、ユーザ名とパスワードを入力してください。

- (3) 左側のフレームの「サービス」を選択し、「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション」を選択すると、設定画面が表示されます。必要に応じて設定を変更してください。
また、ESMPRO/AC の「マルチサーバ構成データ編集」で作成した設定ファイルをLinuxサーバへ転送することも可能です。

サービス [ヘルプ]

* 図はVer. 3.06 のものです

OS 起動時の状態	現在の状態	(再)起動	停止	サービス
起動 ▼	停止中	起動	停止	ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.06
停止 ▼	停止中			ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション [戻る] [ヘルプ]

■ 設定ファイル関連

設定ファイル: [設定ファイルをダウンロードする](#)
[設定ファイルをアップロードする](#)

■ 運用操作

手動操作によるシャットダウン: 切断条件の成立 シャットダウン後電源OFF 再起動

設定ファイルのアップロード

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション [戻る] [ヘルプ]

■ 設定ファイル

オプション設定ファイル (config.cfg): 参照...

スケジュールファイル (schedule.cfg): 参照...

起動ジョブ登録ファイル (upjob.cfg): 参照...

アップロード対象ファイル:

電源切断ジョブ登録ファイル (downjob.cfg): 参照...

電源異常ジョブ登録ファイル (downjob2.cfg): 参照...

(注意) 各ファイルは、ESMPRO/AutomaticRunningController for Linux または、ESMPRO/AC Enterprise の『マルチサーバ構成データ編集』を使用して作成してください。

ファイルの転送

- (4) 以下の画面で「監視要因の設定」および「通信パラメータの設定」を行います。（通常は①だけ設定し、②③は初期値のままご使用ください）
- ① 『監視要因の設定』（スケジュールにより ON/OFF を行う場合はチェックをいれます）を設定してください。
 - ② 『通信処理間隔』は、制御端末との通信を行う間隔です。半角数値で入力してください。（初期値：20 設定範囲：1～600）
 - ③ 『TCP/IP ポート番号』は、上記通信で使用するポート番号です。本パラメータを変更する際には、制御端末側でも変更が必要です。（初期値6000 設定範囲：1～32767）

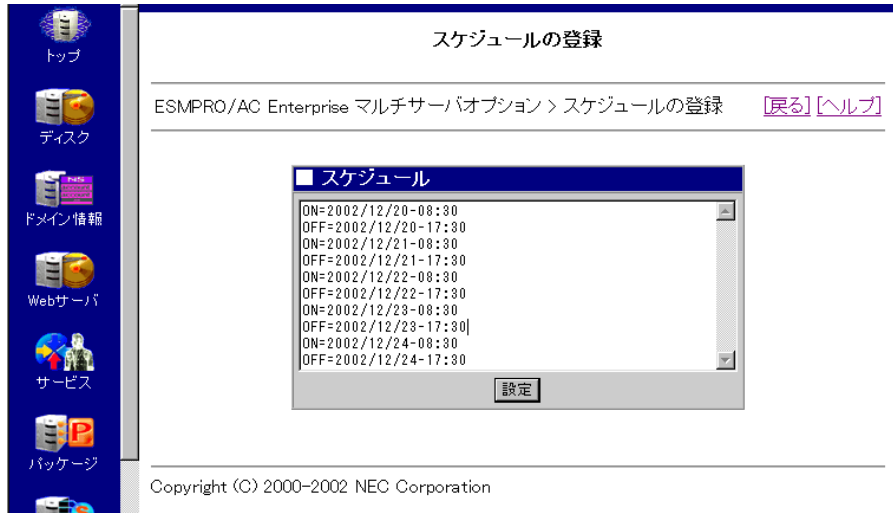
The image shows three sequential screenshots of a configuration window:

- Step 1: 『監視要因』の設定** (Monitoring Factor Settings). A red box highlights the '投入要因' (Input Factor) and '切断要因' (Disconnection Factor) sections, each with a 'スケジュール' (Schedule) checkbox. A '設定' (Settings) button is at the bottom.
- Step 2: 『スケジュール』の設定** (Schedule Settings). A link for 'スケジュールの登録...' (Register Schedule...) is visible.
- Step 3: 『オプション』の設定** (Option Settings). A red box highlights the '通信パラメータ' (Communication Parameters) section, specifically the '通信処理間隔(秒)' (Communication Processing Interval (sec)) set to 20 and 'TCP/IPポート番号' (TCP/IP Port Number) set to 6000. Other options include job start settings for power on/off and abnormal power events, with time-out values of 10 and 2 minutes. A '設定' (Settings) button is at the bottom.

- ④ 運用中に「設定」ボタンで内容を変更した場合には、『サービス』で「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション」を再起動してください。設定内容は、サービスの次回起動時から有効になります。

(5) スケジュール運転を行う場合には、以下の画面で「スケジュールの登録」を行ってください。

- ① 『ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション』から、『スケジュールの登録』を選択してください。
(3)の手順において「schedule.cfg」ファイルをアップロード済みの場合、「schedule.cfg」ファイルに記録されたスケジュール設定情報が表示されます。
- ② 「スケジュール」Text フィールドに、以下のフォーマットにしたがってスケジュールを入力後、『設定』ボタンを選択してください。正常に登録できたらText フィールドには設定内容が反映されます。



<登録フォーマット (半角英数のみ有効) >

ON=YYYY/MM/DD-hh:mm
OFF=YYYY/MM/DD-hh:mm

YYYY	:年	hh	:時
MM	:月	mm	:分
DD	:日		

<登録例>

ON=2002/12/30-08:00
OFF=2002/12/30-17:30
ON=2002/12/31-08:00
OFF=2002/12/31-17:30
ON=2003/01/06-08:30
ON=2003/01/07-08:30

↑ 現在
↓ 未来

上記のようなスケジュールを設定している場合には以下のような運用が可能です。

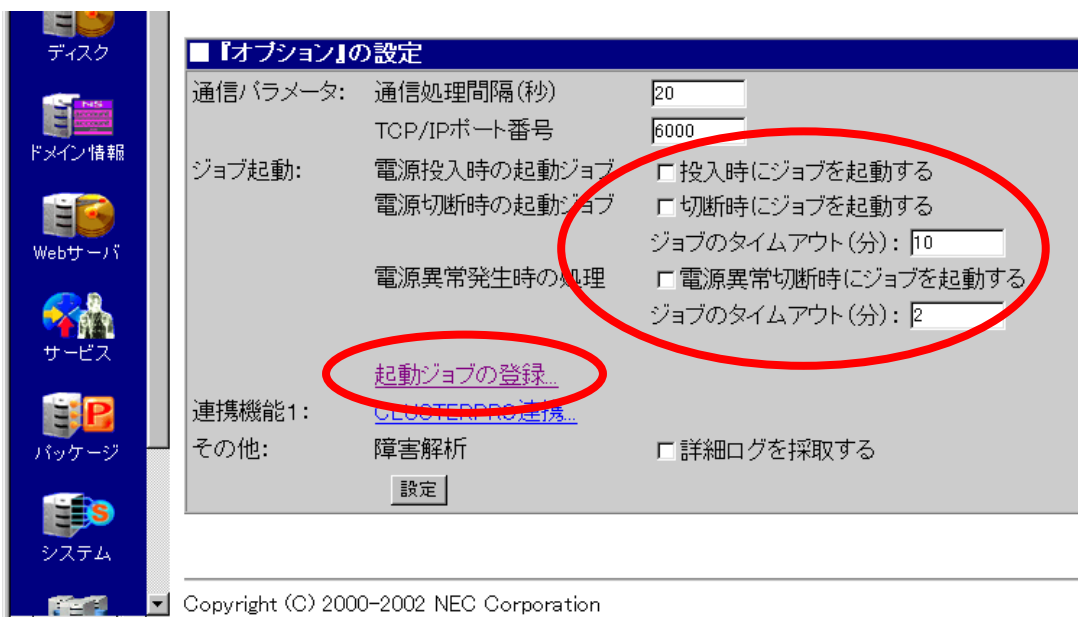
- (a) 2002年の 12/30 8:00 ~ 12/30 17:30 まで運用
- (b) 2002年の 12/31 8:00 ~ 12/31 17:30 まで運用
- (c) 2003年の 1/6 8:30 ~ 運用を開始 (停止は手動)
- (d) 2003年の 1/7 8:30 ~ 運用を開始

<補足>

- スケジュールの登録は、古い時間から新しい時間の順番に登録してください。
- ON時間より前に手動で起動すると、ON時間は無視して次回OFF時間まで運用を継続します。
- OFF時間だけの登録を行うと、停止処理のみの自動運転となります。
- 運転する設定後、ESMPRO/ACサービスまたはシステムの再起動を実行してください。

(6) 次に、「ジョブの設定」を行ってください。ジョブとは、システムの起動/シャットダウン時に起動するプログラムのことで、この設定により任意のプログラムの起動が可能になります。

- ① OSの起動時にジョブを起動する場合には、『電源投入時の起動ジョブ』で、「『電源投入時の起動ジョブ』を起動する」を選択してください。(初期値:ジョブは起動しない)
- ② スケジュールによるOSのシャットダウン時などにジョブを起動する場合には、『電源切断時の起動ジョブ』で、「『電源切断時の起動ジョブ』を起動する」を選択してください。(初期値:ジョブは起動しない)
また、ジョブのタイムアウト値(分単位)を同時に設定してください。(初期値:10 設定範囲:1~255)
- ③ 電源異常が発生した場合のOSのシャットダウン前にジョブを起動したい場合には、『電源異常発生時の処理』で、「『電源切断時の起動ジョブ』を起動する」または「『電源異常時の限定ジョブ』を起動する」を選択してください。(初期値:ジョブは起動しない)
また、ジョブのタイムアウト値(分単位)を同時に設定してください。(初期値:2 設定範囲:1~20)



- ④ 運用中に「設定」ボタンで内容を変更した場合には、『サービス』で「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション」を再起動してください。「ジョブの設定」の設定内容は、サービスの次回起動時から有効になります。

(7) ジョブの登録を行う場合には、以下の画面で「起動ジョブの登録」を行ってください。

- ① 『ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション』から『起動ジョブの登録』を選択してください。
- ② 各 Text フィールドにジョブを入力後、『設定』ボタンを選択してください。正常に登録できたら Text フィールドには設定内容が反映されます。

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション > 起動ジョブの登録

[戻る](#) [ヘルプ](#)

■ 起動ジョブの登録

電源投入時の起動ジョブ

電源切断時の起動ジョブ

電源異常時の限定ジョブ

設定

■電源投入時の起動ジョブ

OS起動時に起動するジョブです。

```
<登録例>
/usr/bin/job1
/usr/sbin/workjob -start
job2 -start
```

この場合、/usr/bin/job1 → /usr/sbin/workjob -start → job2 -start の順番に起動しますが、並行して動作します。登録ジョブが、パスが通っているディレクトリに存在するプログラムではフルパス指定で記述する必要はありません。

入力制限としては、一つのジョブあたり255文字までで最大99件のジョブが登録可能です。

■電源切断時の起動ジョブ

■電源異常時の限定ジョブ

スケジュール運転や電源異常が発生した場合などの、電源切断条件が成立した場合に起動するジョブです。

「電源異常時の限定ジョブ」は電源異常が発生した時に通常の「電源切断時の起動ジョブ」とは別に限定したジョブのみ起動したい場合に使用してください。

```
<登録例>
/usr/bin/job1
/usr/sbin/workjob -start
job2 -start
```

この場合、/usr/bin/job1 → /usr/sbin/workjob -start → job2 -start の順番に起動し、各ジョブが終了してから次のジョブを起動します。登録ジョブが、パスが通っているディレクトリに存在するプログラムではフルパス指定で記述する必要はありません。

入力制限としては、一つのジョブあたり255文字までで最大99件のジョブが登録可能です。

- (8) インストール後に設定を行った場合は、設定終了後『サービス』で「ESMPRO/AC Enterpriseマルチサーバオプション」を起動してください。

サービス

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起動	停止	サービス
起動 ▾	停止中	起動	停止	ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.06
停止 ▾	停止中			ESMPRO
停止 ▾	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動 ▾	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(SNMP)
起動	起動中	再起動	停止	リモートログイン(TELNET)
停止 ▾	停止中	起動	停止	WPADサーバ(wpad-httpd)

設定

* 図はVer. 3.06のものです

3. 2. 2 Apache がインストールされている環境の場合

Management Console が無い環境の場合でも、その環境に Apache がインストールされている場合には Apache の設定を行うことで、以後の設定が Management Console と同様にブラウザ上から可能になります。

- (1) 以下のアドレスにアクセスしてください。
<http://LinuxサーバのIPアドレス/esmproac/esmac.cgi>
アクセスすると以下の画面が表示されます。

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション [\[戻る\]](#) [\[ヘルプ\]](#)

■ 設定ファイル関連

設定ファイル: [設定ファイルをダウンロードする](#)
[設定ファイルをアップロードする](#)

■ 運用操作

障害発生時のログファイル採取:

- (2) ESMPRO/AC Enterprise または ESMPRO/AC for Linux のクライアントツール『マルチサーバ構成データ編集』にて設定ファイルを作成した場合には、「設定ファイルをアップロードする」を選択することで、ツールにて作成した設定ファイルをアップロードすることができます。

設定ファイルのアップロード

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション [\[戻る\]](#) [\[ヘルプ\]](#)

■ 設定ファイル

オプション設定ファイル (config.cfg):

スケジュールファイル (schedule.cfg):

起動ジョブ登録ファイル (upjob.cfg):

アップロード対象ファイル: 電源切断ジョブ登録ファイル (downjob.cfg):

電源異常ジョブ登録ファイル (downjob2.cfg):

(注意) 各ファイルは、ESMPRO/AutomaticRunningController for Linux または、ESMPRO/AC Enterprise の『マルチサーバ構成データ編集』を使用して作成してください。

「3. 2. 1 Management Consoleでの設定」の手順 (4) ~ (7) を参照して、各種設定を行ってください。

- (3) 設定変更完了後は、対象の Linux サーバに telnet または ssh 等でログインし、ESMPRO/AC サービスの再起動を行ってください。

3. 2. 3 設定ファイルでの設定変更

◆Web ベースの管理ツール「Management Console」(WbMC)がない環境の場合は以下の手順で行えます。

* 「Management Console」(WbMC)、telnet を使用しない 場合には、Linux サーバに root でログインして③の手順を行ってください。

① Windows サーバからtelnet でLinux サーバに接続する。

※Linux サーバの IP アドレスが、172.16.1.102 の場合
telnet 172.16.1.102

Login 名と password を入力する。
※この時には、root 以外のユーザでログインする必要があります。

② ログイン後、root 権限を取得するために以下のコマンドを実行し、root のパスワードを入力する。

```
% su-
```


- ③ ESMPRO/AC Enterprise または ESMPRO/AC for Linux のクライアントツール『マルチサーバ構成データ編集』にて設定ファイルを作成した場合には、以下の手順にて設定ファイルの情報を反映することができます。

③-1. Windows 端末（『マルチサーバ構成データ編集』）にて作成した以下の設定ファイルを、それぞれ以下の場所にコピーしてください。

※ ac_e_net.cfg(マルチサーバ構成ファイル)は、ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション (Linux 版)をインストールしたサーバには、コピーしないでください。

※ コピーする際は、ファイル名の大文字、小文字を正しく指定してください。

</usr/local/AUTORC/data/windata 配下にコピーするファイル>

config.cfg	制御端末の自動運転設定ファイル
downjob.cfg	電源切断ジョブ登録ファイル
downjob2.cfg	電源異常ジョブ登録ファイル
upjob.cfg	起動ジョブ登録ファイル

</usr/local/AUTORC/data/RCVDATA 配下にコピーするファイル>

schedule.cfg	スケジュールファイル
--------------	------------

③-2. /usr/local/AUTORC/data/windata ディレクトリへファイルをコピーした場合、文字コード変換のために以下のいずれかのコマンドを実行してください。

■ iconv コマンドを利用する場合

```
# cd /usr/local/AUTORC/data/windata/
# iconv -f SHIFT-JIS -t EUC-JP ./config.cfg | tr -d '¥r' > ../config.apc
# iconv -f SHIFT-JIS -t EUC-JP ./downjob.cfg | tr -d '¥r' > ../downjob.apc
# iconv -f SHIFT-JIS -t EUC-JP ./downjob2.cfg | tr -d '¥r' > ../downjob2.apc
# iconv -f SHIFT-JIS -t EUC-JP ./upjob.cfg | tr -d '¥r' > ../upjob.apc
```

■ nkf コマンドを利用する場合

```
# cd /usr/local/AUTORC/data/windata/
# nkf -Sed ./config.cfg > ../config.apc
# nkf -Sed ./downjob.cfg > ../downjob.apc
# nkf -Sed ./downjob2.cfg > ../downjob2.apc
# nkf -Sed ./upjob.cfg > ../upjob.apc
```

③-3. /usr/local/AUTORC/data/RCVDATA ディレクトリへスケジュールファイルをコピーした場合、以下のコマンドを実行してください。

```
# cd /opt/nec/wbmc/adm/service/ESMPRO_ACEnterprise
# ./esmac.cgi -exec_fileupload > /dev/null 2>&1
```

設定ファイルコピー後に、Linux サーバ上で個別に設定変更を行う場合は、引き続き以下の手順を参照してください。

④ 以下のファイルをviエディタなどを使用して、設定項目の登録を行う。

●基本項目

■設定ファイル

/usr/local/AUTORC/data/config.apc

■設定方法

ファイルを開き設定します。

```
% vi /usr/local/AUTORC/data/config.apc
```

■各設定項目

<設定例>

```
[Apcu]
DownJobTm=0a
DownJobTm2=02
UpJob=0
P0x=000000000000000000
EsmArmSw=4
EsmArmDownSw=0
EsmArmDownTm=2
DownJob=0
StatusSendTimer=20
SendPort=6000
StatusChangeTimer=180
TraceMode=OFF
CondExpr=
```

パラメータ名	説明	初期値
Apcu	セクション名	
DownJobTm	電源切脚時に起動するジョブのタイムアウト値 (16進数 分単位)	0a
DownJobTm2	電源異常発生時に起動するジョブのタイムアウト値 (16進数 分単位)	02
UpJob	ESMPRO/AC サービス開始時にジョブを起動する/しないの選択 0:しない 1:する	0
P0x	スケジュールによるサービス起動を行う/行わないの選択	0000000000000000

	0800000000000000 : 行う 0000000000000000 : 行わない	
DownJob	停止時のジョブ起動 0 : 起動しない 1 : 電源切替時の起動ジョブ 2 : 電源異常発生時の起動ジョブ 3 : 電源切替時、電源異常発生時の起動ジョブ	0
StatusSendTimer	連動端末→制御端末 へ通信を行う間隔 (10 進数 秒単位)	20
SendPort	連動端末→制御端末 へ通信を行う際に使用するポート番号	6000
StatusChangeTimer	未使用	180
TraceMode	詳細ログを採取する/しない OFF : しない ON : する	OFF
CondExpr	スケジュールによるサーバ停止を行う/行わないの選択 TIM : 行う (空白) : 行わない	(空白)

<注意>

設定ファイルを直接エディタで修正する際は、パラメータ名と「=」の間にスペースが入らないように注意してください。

設定例)

パラメータ名=Value →NG
パラメータ名=Value →OK

- ⑤ ESMPRO/AC サービスの再起動を行います。

```
% /etc/rc.d/init.d/esmarcsv stop
% /etc/rc.d/init.d/esmarcsv start
```

- ⑥ 設定終了後、ログアウトする。

```
% exit
% exit
```

●スケジュール

■設定ファイル

/usr/local/AUTORC/data/schedule.apc

■設定方法

ファイルを開き、直接ON/OFF時間を入力します。

```
% vi /usr/local/AUTORC/data/schedule.apc
```

<登録フォーマット (半角英数のみ有効) >

ON=YYYY/MM/DD-hh:mm
OFF=YYYY/MM/DD-hh:mm

YYYY	:年	hh	:時
MM	:月	mm	:分
DD	:日		

※最後の行には改行が必要です。

<登録例>

```
ON==2002/12/30-08:00
OFF=2002/12/30-17:30
ON=2002/12/31-08:00
OFF=2002/12/31-17:30
ON=2003/01/06-08:30
ON=2003/01/07-08:30
```

↑ 現在
↓ 未来

上記のようなスケジュールを設定している場合には以下のような運用が可能です。

- 2002年の 12/30 8:00 ~ 12/30 17:30 まで運用
- 2002年の 12/31 8:00 ~ 12/31 17:30 まで運用
- 2003年の 1/6 8:30 ~ 運用を開始 (停止は手動)
- 2003年の 1/7 8:30 ~ 運用を開始

<補足>

- スケジュールの登録は、古い時間から新しい時間の順番に登録してください。
- ON時間より前に手動で起動すると、ON時間は無視して次回OFF時間まで運用を継続します。
- OFF時間だけの登録を行うと、停止処理のみの自動運転となります。
- 運転する設定後、ESMPRO/ACサービスまたはシステムの再起動を実行してください。

●ジョブ

■設定ファイル

/usr/local/AUTORC/data/upjob.apc(起動時ジョブ)

/usr/local/AUTORC/data/downjob.apc(電源切断時ジョブ)

/usr/local/AUTORC/data/downjob2.apc(電源異常発生時ジョブ)

■設定方法

ファイルを開き、直接ジョブを入力します。

```
% vi /usr/local/AUTORC/upjob.apc  
  
% vi /usr/local/AUTORC/downjob.apc  
  
% vi /usr/local/AUTORC/downjob2.apc
```

<登録例>

```
/usr/bin/job1  
/usr/sbin/workjob -start  
job2 -start
```

※最後の行には改行が必要です。

<補足>

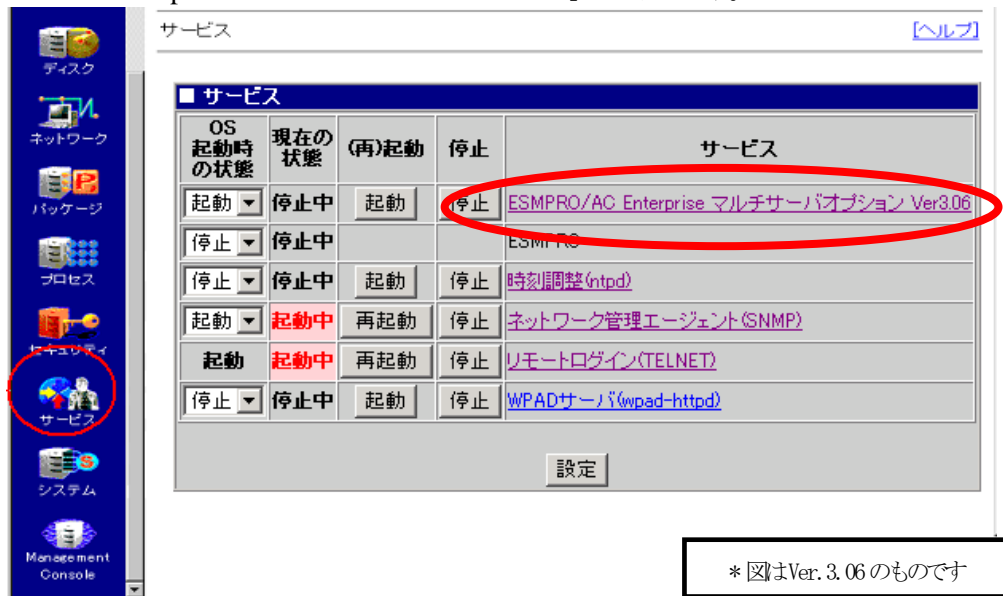
- ・登録ジョブが、パスの通っているディレクトリに存在する場合にはフルパス指定で記述する必要はありません。
- ・一つのジョブあたり255文字までで最大99件のジョブが登録可能です。
- ・起動ジョブを設定後、ESMPRO/ACサービスの再起動を行ってください。

```
% /etc/rc.d/init.d/esmarcsv stop  
% /etc/rc.d/init.d/esmarcsv start
```

3. 3 手動操作によるLinux サーバのシャットダウン

マルチサーバオプションをインストールしたLinuxサーバを手動でシャットダウンする場合の手順を以下に記します。スケジュール運転で、スケジュールONだけの自動運用を行う場合に、この操作を利用してください。

- (1) 「Management Console」の「管理者」でログインしてください。
 - ① 左側のフレームの「サービス」を選択します。
 - ② 「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.06」を選択します。



- (2) 以下の画面で「運用操作」を行ってください。

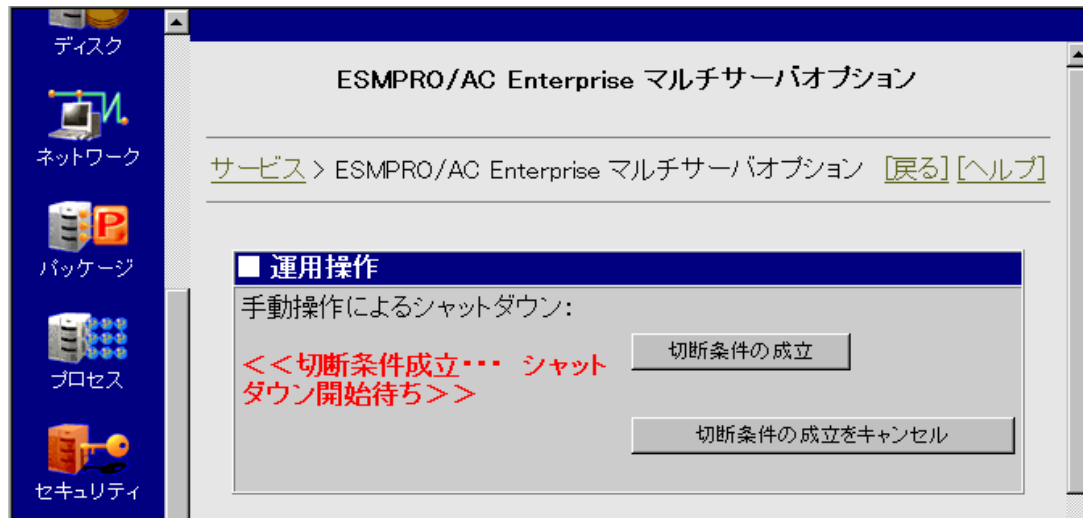


- ① 『手動操作によるシャットダウン』で、「切断条件の成立」ボタンを設定してください。以下のように確認メッセージが表示されますので、実行の確認をしてください。

「ESMPRO/ACによる切断条件が成立します。よろしいですか?マルチサーバ構成の場合、すべてのサーバで条件が成立した場合にシャットダウンが開始します。」

- ② 実行すると、「<<現在、切断条件監視中>>」の表示が、「<<切断条件成立・・・ シャットダウン開始待ち>>」に変わります。しばらくするとシャットダウン処理を開始します。

(注意) 一台のUPSに、複数のサーバを接続しているマルチサーバ構成の場合には、接続しているすべての稼働中のサーバで切断条件が成立するまで、シャットダウン処理は開始されません。



本操作によってシャットダウンを実行した場合にも、「スケジュール運転を行う」運用であれば、設定しているスケジュールON時刻になると、自動起動が行われます。

3. 4 ESM/PRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのアンインストール

3. 4. 1 Management Console を使用する場合のアンインストール方法

- (1) 「Management Console」に接続します。

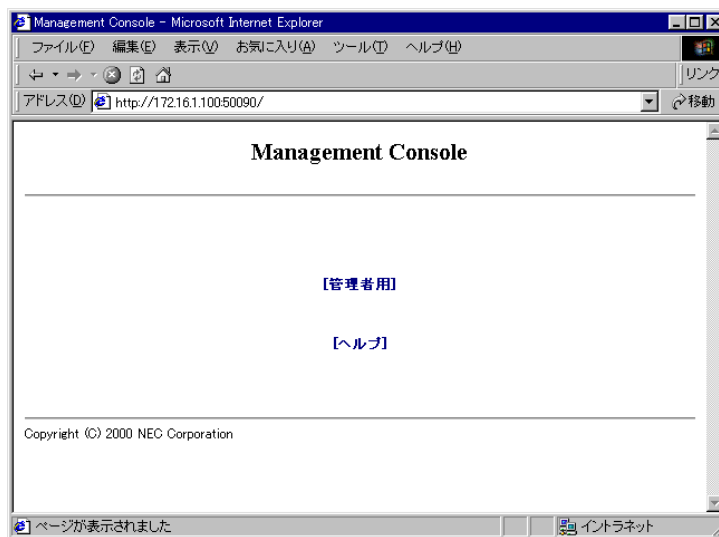
アドレスを以下のように指定し、下記の画面を表示します。（インストールするサーバのIPアドレスが172.16.1.100の場合）

<http://172.16.1.100:50090/>

※機種によって、Management Consoleからアンインストールができない場合があります。その場合にはManagement Consoleを利用しない手順を参照してアンインストールしてください。

※本文中に記述したManagement Consoleでの各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

※このアドレスで指定する「50090」は「Management Console」のポート番号の設定値です。このポート番号は設定変更されている場合がありますので、上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照してください。



- (2) [管理者用]を選択し、ユーザ名とパスワードを入力してください。

(3) 以下の手順でESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション (Linux版) のアンインストールを行います。

- ① 左側のフレームの「パッケージ」を選択します。
- ② 「パッケージの一覧」を選択すると以下のように表示されます。

Applications/File	perl-File-MMagic-1.13-2	guess file type from contents
System Environment/Daemons	ucd-snmp-4.2.3-1.7.1.3	A collection of SNMP protocol tools from UC-Davis.
System Environment/Daemons	nfs-utils-0.31-5	NFS utilities and supporting daemons for the kernel NFS server.
Applications/System	esmacent-3.06-1.0	ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option
User Interface/X	jisxpro-1990-0.1-6	16 dots jis auxiliary kanji font
User Interface/X	knm-new-1.1-4	Kaname-cho font, revised version
Applications/Internet	netscape-communicator-4.77-1	The Netscape
		The basic font

* 図はVer. 3.06のものです

③ 「esmacent-3.08-1.0」を選択すると、サービスの詳細が表示されますので、「アンインストール」ボタンを選択します。

[パッケージ](#) > [パッケージ一覧](#) > esmacent-3.06-1.0 [戻る](#) [ヘルプ](#)

■ esmacent-3.06-1.0

```

Name       : esmacent                Relocations: (not relocateable)
Version    : 3.06                    Vendor: NEC Corporation
Release    : 1.0                     Build Date: Thu Feb 27 15:48:18 2003
Install date: Thu Feb 27 18:15:36 2003  Build Host: linux95h.180dom
Group      : Applications/System      Source RPM: esmacent-3.06-1.0.src.rpm
Size       : 663386                  License: Copyright (C) 2000 NEC Corporation
Packager   : NEC Corporation
Summary    : ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option
Description:
ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option
          
```

* 図はVer. 3.06のものです

④ 「アンインストールしてもよろしいですか?」と表示されますので、「OK」を選択してください。
アンインストールが正常に終了すると以下のメッセージが表示されます。

トップ

ディスク

ドメイン情報

Webサーバ

操作結果通知

■ 操作結果通知

操作は成功しました。

Copyright (C) 2000 NEC Corporation

- (4) 以下の方法でESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション (Linux版) が、アンインストールされたことを確認します。
- a) パッケージの一覧で確認
- ① 左側のフレームの「パッケージ」を選択します。
 - ② 「パッケージの一覧」を選択します。
 - ③ 「ESMPRO/AC Enterprise MultiServer Option」がないことを確認します。
- b) ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのサービスを確認
- ① 左側のフレームの「サービス」を選択します。
 - ② 「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション」がないことを確認します。
- (5) 「Management Console」を終了してください。

3. 4. 2 Management Console が使用不可の場合のアンインストール方法

- (1) root でログインしてください。
- (2) rpm コマンドを使用してアンインストールします。

```
# rpm -e esmacent
```

第4章 注意事項

ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプションのご使用にあたり、次の点にご注意ください。

4. 1 セットアップ/アンインストール関連

- (1) 本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。
- (2) 本製品のセットアップを行った後は、OSの再起動または、ESMPRO/ACEMのサービス再起動が必要です。

```
/etc/rc.d/init.d/esmarcsv stop
```

```
/etc/rc.d/init.d/esmarcsv start
```

(SUSE Linux Enterprise Server の場合)

```
/etc/init.d/esmarcsv stop
```

```
/etc/init.d/esmarcsv start
```

- (3) ESMPRO/ACEMは、ESMPRO/AC、AC EnterpriseまたはESMPRO/AC for Linuxのオプション製品です。従って、ESMPRO/ACEM単体での自動運用はできません。ESMPRO/AC、AC EnterpriseまたはESMPRO/AC for Linuxをセットアップした制御端末がLAN上に必要です。設定方法の詳細については各製品のセットアップカードを参照してください。

なお、制御端末にセットアップする各製品のバージョンは以下のとおりです。必要に応じてバージョンアップを実施してください。

【クラスタ構成で運用する場合】

< Windows 製品 >

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2 (RL2001/03 以降)

ESMPRO/AC Enterprise Ver3.1

< Linux 製品 >

ESMPRO/AutomaticRunningController for Linux Ver3.1

※Ver3.11 以降へアップデートを行う必要があります。

【クラスタ構成以外で運用する場合】

< Windows 製品 >

ESMPRO/AutomaticRunningController Ver3.2 (RL2000/12 以降)

ESMPRO/AC Enterprise Ver3.0 (RL2000/12 以降)

< Linux 製品 >

ESMPRO/AutomaticRunningController for Linux Ver3.1

- (4) ESMPRO/ACEMでの自動運用条件の設定は、すべてネットワーク上の制御端末にて行うことができます。

- (5) ESM/PRO/ACサービスは、各サーバのホスト名、コンピュータ名を15文字まで認識します。このため、Linuxサーバに16文字以上のホスト名を設定されていると、制御端末から認識できません。その回避処理として、サーバのホスト名が16文字を越えていると、ESM/PRO/ACサービスは、`/etc/hosts`に設定される15文字以内のエイリアス名を自ホスト名として認識します。16文字以上のホスト名が設定されている場合には、15文字以内のエイリアス名を`/etc/hosts`に登録してください。
- (6) 連動端末を、同一グループの制御端末と連動した自動運転を行うための設定として、連動端末が起動後に自動的にOFF成立させる方法があります。その自動的にOFF成立させるためのシェルスクリプトは、製品と同時にインストールされます。運用時に使用する際には、以下の要領で「電源投入時の起動ジョブ」として、シェルスクリプトを追加してください。

【設定方法】

1. ManagementConsole または、設定ファイルの修正により、「電源投入時の起動ジョブ」を起動するように設定してください。

<ManagementConsole>

[サービス]→[ESM/PRO/AC Enterprise マルチサーバオプション]→
[投入時にジョブを起動する]チェックボックスをON→[設定]ボタン

<設定ファイル>

ファイル名 : /usr/local/AUTORC/data/config.apc
パラメータ名 : UpJob
変更後の値 : 1

2. ManagementConsole または、設定ファイルの修正により、「電源投入時の起動ジョブ」を登録します。

<ManagementConsole>

[サービス]→[ESM/PRO/AC Enterprise マルチサーバオプション]→
[起動ジョブを登録する]→[起動ジョブを登録する]エディットボックスに以下のジョブを登録
`/usr/local/AUTORC/makedown.sh`
→[設定]ボタン

<設定ファイル>

ファイル名 : /usr/local/AUTORC/data/upjob.apc
追加内容 : /usr/local/AUTORC/makedown.sh

3. OSの再起動、またはESM/PRO/ACサービスの再起動を行ってください。

- (7) ESM/PRO/ACEMを使用したサーバの自動運転を行う場合には、サーバ本体のBIOSの設定を以下のように設定してください。

《BIOSのセットアップ》

『AC-Link』の設定を「Power On」（既定値：Last State）

「Last State」の設定の場合、サーバの機種によっては（APMに対応したサーバ）OSシャットダウン後サーバはAC-Offとなり、UPSの電源供給のON/OFFによるサーバ起動ができなくなります。

BIOSの設定変更の方法についてはサーバ本体のユーザズガイド（取扱説明書）を参照してください。

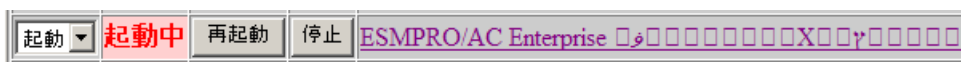
- (8) ESMPRO/ACEMのインストールにおいて、すでにESMPRO/ACEM がインストール済みの環境に ESMPRO/AC for Linux などの他製品をインストールしてしまうと、ESMPRO/ACEMが正常に移動できなくなります。この場合には、後からインストールした製品をアンインストールし、以下のコマンドによりESMPRO/ACEMもアンインストールします。その後、ESMPRO/ACEMの再インストールを行ってください。(再インストール方法は、通常のインストール方法と同様です。)

```
# rpm -e --noscripts esmacent
```

- (9) RedHat Enterprise Linux 6.1/6.2 を使用している場合、ESMPRO/ACEMのアップデート (ESACM-030-00C)を適用後、以下のコマンドを実行してください。

```
# cp -p /usr/local/AUTORC/acem/3.0c/etc/rc.d/init.d/esmarcsv /etc/rc.d/init.d/esmarcsv
```

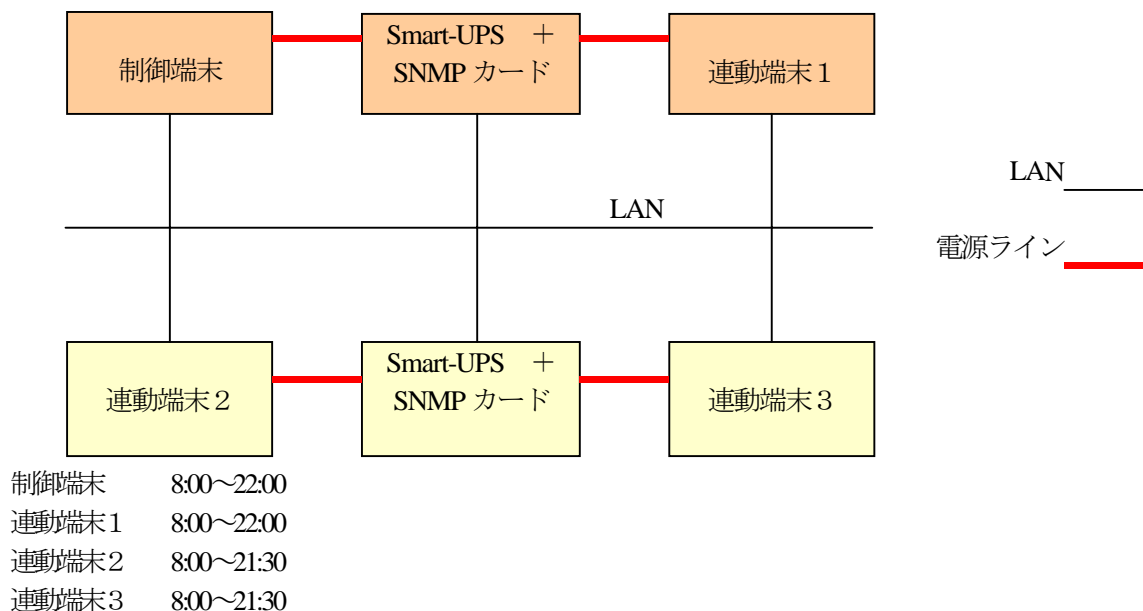
- (10) Management Consoleが使用可能な機種の一部において、「サービス」を選択して表示されるサービス一覧画面の、「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション」に関する日本語部分(“マルチサーバオプション”)が、文字化けして表示される場合があります。



サービス名としては文字化けした状態になりますが、Management Console の機能として影響はございませんので、そのままご使用いただいて問題ございません。

4. 2 スケジュール運転での運用

複数の電源制御グループを管理するような以下の構成で運用する場合のスケジュールの設定としては、以下のように制御端末 (ESMPRO/AC Enterprise または、ESMPRO/AC for Linux をインストールするサーバ) のOFF 時間を後ろにずらすことを推奨します。



連動端末2、3は、連動端末の OFF 時刻を認識した時点で制御端末が必ず動作している必要があることや、時刻設定の誤差などの要因のため、必要な時間 (30分程度) を調整してください。

制御端末と連動端末1の場合には、同じUPSに接続されたマルチサーバ構成になっているため、制御端末が先にOFF時刻を認識しても連動端末1でOFF時刻を認識しない限りシャットダウンは行われません。

4. 3 FirewallServer での運用

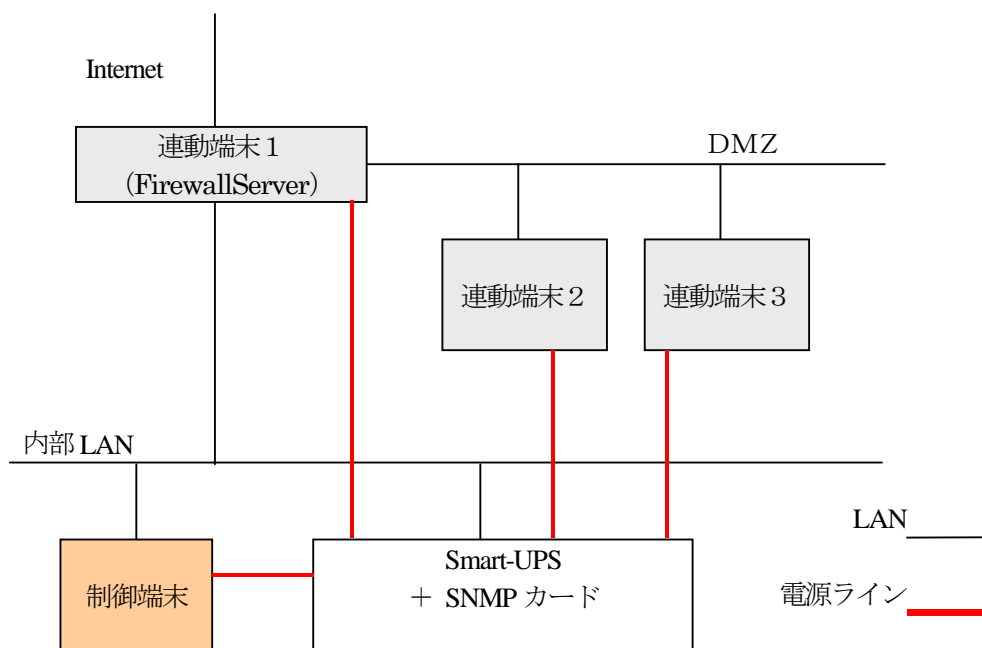
連動端末と制御端末の間に FirewallServer があり、その FirewallServer にマルチサーバオプションをインストールして運用を行う場合には以下のような設定変更が必要です。

以下の図のような構成で運用する場合、制御端末が連動端末2、3に対して停電時などのシャットダウン要求を行うためには、連動端末1 (FirewallServer) が動作している必要があります。

しかし、制御端末から連動端末に対するシャットダウン要求のタイミングによっては、最初に連動端末1にシャットダウン要求が行われ、FirewallServer のシャットダウンが開始してから連動端末2、3へのシャットダウン要求が行われることがあります。

その場合、FirewallServer の処理が停止してしまい、連動端末2、3へ制御端末からのシャットダウン要求が漏かなくなる可能性があります。

【環境例】



このような動作を回避するには、FirewallServer のシャットダウン処理の開始を若干遅らせる必要があります。本製品をインストールすると、「電源切断時の起動ジョブ」「電源異常発生時の限定ジョブ」に、それぞれ5秒スリープさせるコマンドを追加しますので、FirewallServer に本製品を導入する際には各起動ジョブを有効にする設定にしてください。

【設定ファイルの修正方法】

1. 以下のファイルのパラメータ「DownJob」の値を3に変更。(root ユーザでログインして操作してください。)
ファイル名 : /usr/local/AUTORC/data/config.apc
パラメータ名 : DownJob

変更後の値 : 3

2. システムの再起動、またはESMPRO/AC サービスの再起動を行ってください。

4. 4 システムログの文字コードについて

Linux サーバにインストールした ESMPRO/AC はシスログ(/var/log/messages)にメッセージを記録しております。記録するメッセージの文字コードは、ESMPRO/AC のバージョンにより異なります。下記手順を実施してバージョンを確認してください。

<バージョン確認方法>

1) root 権限で下記コマンドを実行してください。

```
# rpm -qa | grep esmacent
```

2) 上記コマンドの出力結果で ESMPRO/AC のバージョンを確認します。

esmacent_update が存在する場合はそのバージョン情報部分を、esmacent_update が
ない場合は esmacent のバージョン情報部分からバージョン確認してください。

(ESMPRO/AC では小数点第二位のバージョンが「0, 1, 2, ..., 8, 9, a, b, ...」の
順で上がります。)

●実行結果例 1 : esmacent_update-3.09-1.0.i386.rpm まで適用済みの場合

```
esmacent-3.08-1.0  
esmacent_update-3.09-1.0 ← バージョン 3.09 で稼働中
```

●実行結果例 2 : esmacent-3.08-1.0.i386.rpm のみインストールの場合

```
esmac-advance-multi-3.08-1.0 ← バージョン 3.08 で稼働中
```

<3.08 以下のバージョン>

ESMPRO/AC がシスログに記録する文字コードは、OS で設定されている文字コードの
設定に関係なく「日本語 EUC」で固定です。

<3.09 以上のバージョン>

デフォルトでは環境変数 LANG に指定された文字コードが「日本語 EUC」または「日
本語 UTF-8」の場合には、LANG で指定されている文字コードを自動判別してシスログ
に記録します。(日本語 EUC、日本語 UTF-8 以外の文字コードが設定されている場合は、
「日本語 EUC」で記録します。)

ただし、Linux サーバにインストールされている ESMPRO/ServerAgent のバージョンに
よっては、環境変数 LANG に指定された文字コードでシスログに記録されない場合があ
ります。その場合は、root 権限で/usr/local/AUTORC/data/result.apc の内容を vi 等で変更
することにより、シスログに記録する文字コードを EUC または UTF-8 で指定するこ
とが可能です。

/usr/local/AUTORC/data/result.apc ファイル内の「LangFlag」の値を 1 に、「LangFile」に
は使用したい文字コード用のファイル(日本語 EUC の場合は ac_euc.msg、日本語 UTF-
8 の場合は ac_utf8.msg)を指定してください。

```
LangFlag=1 ← 値を 1 に変更  
LangFile=ac_euc.msg ← 文字コードファイルを指定
```

編集して result.apc ファイルを保存後、以下のコマンドにて ESMPRO/AC サービスを再起
動してください。


```
# /etc/rc.d/init.d/esmarcsv stop  
# /etc/rc.d/init.d/esmarcsv start
```

(SUSE Linux Enterprise Server の場合)

```
# /etc/init.d/esmarcsv stop  
# /etc/init.d/esmarcsv start
```

4. 5 仮想化環境について

仮想化環境を使用する際は、仮想化環境およびその仮想化環境上で使用する仮想マシンの対応情報を弊社 OS 担当の問い合わせ窓口にご確認をお願いします。

※OS の機能として使用可能であっても、弊社判断により未サポートとなっている場合があります。

以下、各仮想化環境についての注意事項を記載します。

4. 5. 1 VMware ESX 4 環境について

VMware ESX 4 を仮想化環境として使用する場合、以下の Web ページに公開されている資料を参照して、必要な設定を行ってください。

電源管理・自動運転 ESMPRO/AutomaticRunningController

http://www.nec.co.jp/esmpro_ac/

→ ダウンロード

→ 各種資料 VMware ESX 4 環境における電源管理ソフトウェアの導入

4. 5. 2 XenServer Enterprise 環境

XenServer Enterprise を仮想化環境として使用する場合、仮想マシンの自動起動、シャットダウンについては「XenCenter」のツールから実施してください。

ESMPRO/AC のジョブ機能による設定は必要ありません。

4. 5. 3 KVM (Kernel-based Virtual Machine)環境

KVM (Kernel-based Virtual Machine)を使用する場合、以下の設定を行ってください。(コマンドおよび設定の手順等の詳細については、弊社 OS 担当窓口までお問い合わせください。)

<仮想マシンの自動起動について>

ホスト OS の起動と連動して、仮想マシンを自動起動したい場合は、「virsh autostart」コマンドを使用して自動起動の設定を行ってください。

<仮想マシンのシャットダウンについて>

ホスト OS のシャットダウンと連動して仮想マシンをシャットダウンするためには、「virsh shutdown」コマンドにて対象の仮想マシンをシャットダウンするジョブを作成し、ESMPRO/AC の「電源切断時のジョブ」および「電源異常発生時のジョブ」に、そのジョブを登録していただく必要があります。

※「virsh shutdown」コマンドによる仮想マシンのシャットダウンジョブを登録する場合、そのコマンドを実行した後に対象ゲスト OS のシャットダウン処理が完了するまでの時間分、待ち合わせるための「sleep コマンド」を実行するようなジョブを登録してください。

(sleep コマンドによる待ち合わせを行わない場合、仮想マシンのシャットダウンが完了しないまま、ホスト OS のシャットダウンが開始する可能性があり、仮想マシンが不正な状態になる場合があります。)

(例) 仮想マシンのシャットダウンジョブ作成例

仮想マシンとして RedHat Enterprise Linux AS4.8 (仮想マシン名は「rhel48-kvm」)が登録されており、仮想マシンのシャットダウンに 90 秒必要な場合のジョブファイルの内容

```
#!/bin/sh
virsh shutdown rhel48-kvm
sleep 90s
```

第5章 障害発生時には

マルチサーバオプションのご使用中に障害が発生した場合には、以下の手順でマルチサーバオプションのログファイルを採取してください。

5. 1 Web 機能を利用する場合

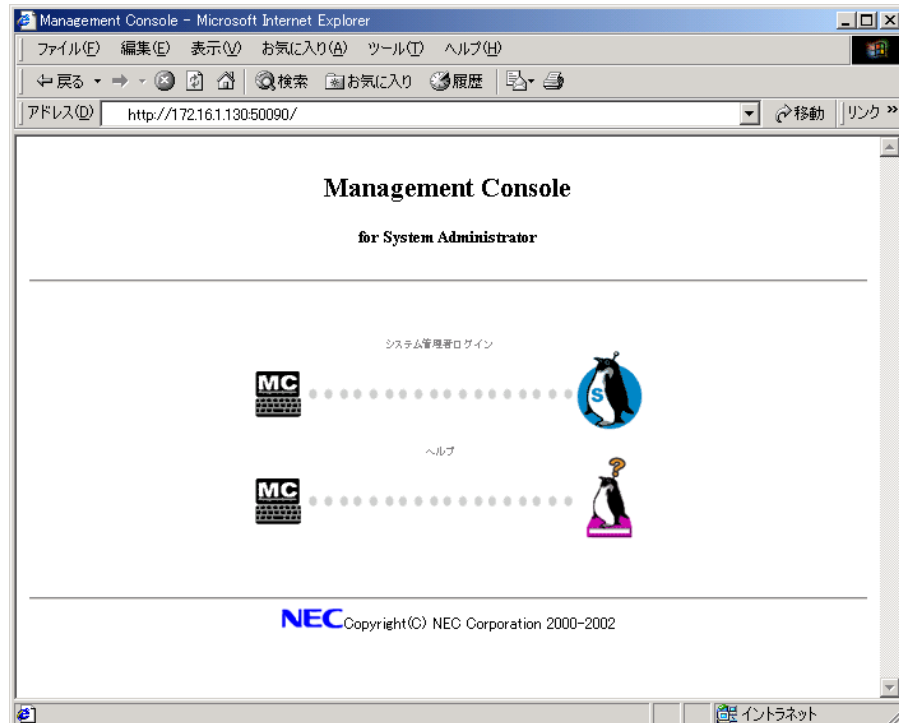
Management Console を利用した Web 機能が利用可能な場合には、以下の手順でブラウザからログ（システムログ、AC サービスのログ等）を採取することができます。

- (1) ブラウザを起動し、Web ベースの管理ツール「Management Console」に接続します。
アドレスは以下のように指定しますと図のように表示されますので管理者でログインしてください。（インストールするサーバのIPアドレスが172.16.1.130の場合）

<http://172.16.1.130:50090/>

※本文中に記述したManagement Console での各種操作手順は、機種によって若干異なる場合があります。その場合にはサーバ本体のマニュアルをご確認の上、同様の操作を行ってください。

※このアドレスで指定する「50090」は「Management Console」のポート番号の設定値ですが、このポート番号は設定変更されている場合があります。上記アドレスでアクセスできない場合には「Management Console」の操作手順を参照してください。



- (2) 左側のフレームの「サービス」を選択し、サービス情報を表示させ、「ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.06」を選択してください。

サービス

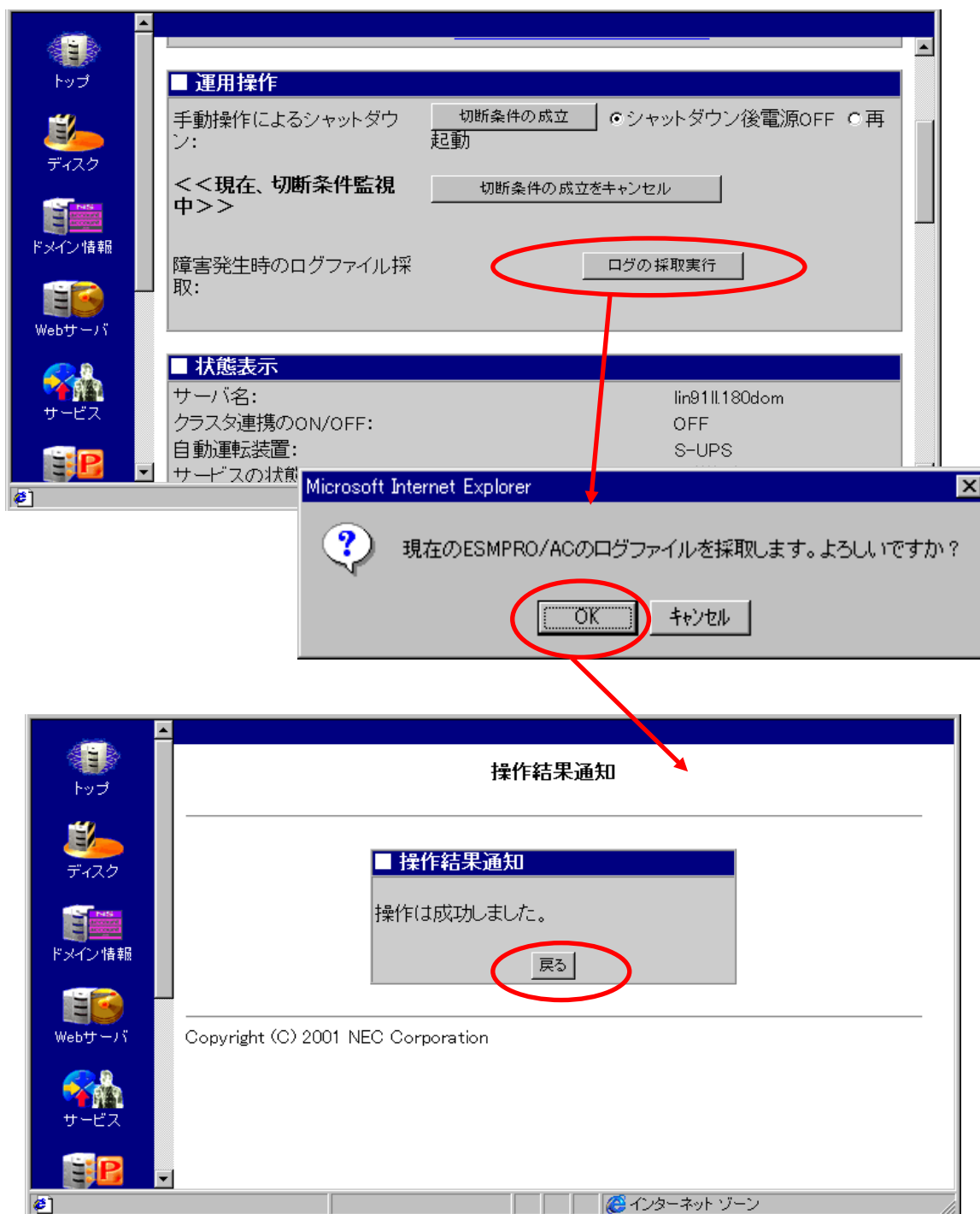
[ヘルプ](#)

■ サービス				
OS 起動時 の状態	現在の 状態	(再)起動	停止	サービス
起動 ▾	起動中	再起動	停止	ESMPRO/AC Enterprise マルチサーバオプション Ver3.06
停止 ▾	停止中			ESMPRO
停止 ▾	停止中	起動	停止	時刻調整(ntpd)
起動 ▾	起動中	再起動	停止	ネットワーク管理エージェント(SNMP)
起動	起動中	再起動	停止	リモートログイン(TELNET)
停止 ▾	停止中	起動	停止	WPADサーバ(wpad-httpd)

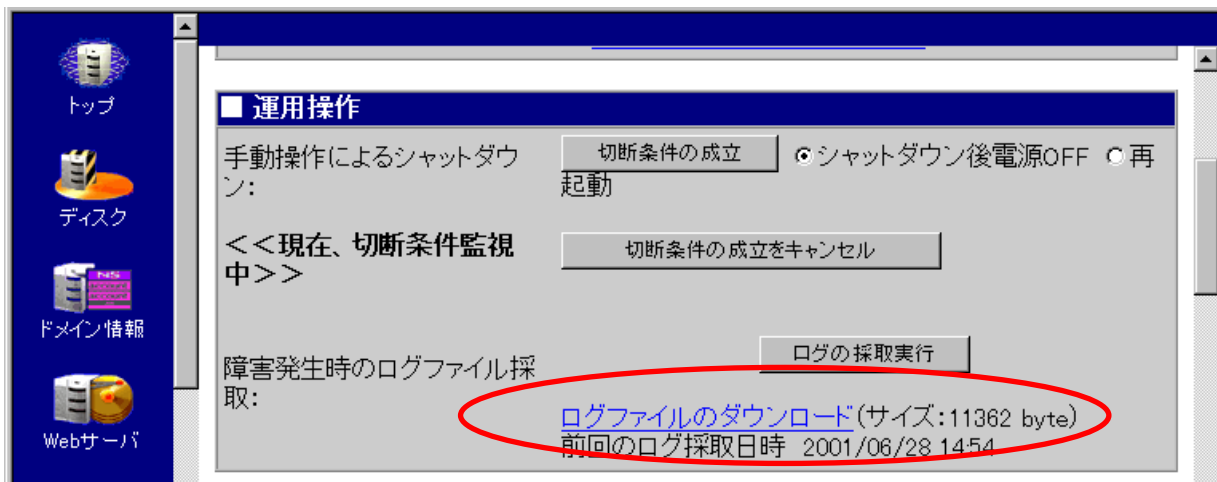
設定

* 図はVer. 3.06 のものです

(3) 「ログ採取実行」を選択してください。以下、下記図の手順で操作してください。



- (4) 「ログファイルのダウンロード」を選択してください。採取したログがダウンロードできます。ダウンロードできたら、ログをFDに採取してください。



※注意

apache を利用した Web 機能の場合には、上記の手順ではシステムログの採取はできません。システムログ (var/log/messages) は手動で採取してください。

5. 2 Web 機能を利用しない場合

Web 機能を利用しないで、ログイン後コマンドプロンプト上で直接コマンドを実行することによりログを採取することができます。

(1) root でログインします。

(2) 以下のコマンドを実行します。

```
# /usr/local/AUTORC/log_save.sh
```

(3) FDをLinux サーバのFDドライブに挿入し、マウントします。

```
# mount -t vfat /dev/fd0 /mnt/floppy
```

(4) ログをFDへコピーします。

```
# cp /opt/nec/wbmc/adm/service/ESMPRO_ACEnterprise/esmaclog.tar.gz /mnt/floppy
```

(5) FDをアンマウントします。

```
# umount /dev/fd0
```